

# よみがえったあの日の記憶

## 28年前の映像

「世紀末大博覧会」の準備のための資料調査を進める中で、とある民家のタンスの引き出しから、撮影ずみのかなり古い写真フィルム1本が発見された。箱に書かれた文字から、その家の主が28年前に撮影したものだと思われたが、本人もまったく記憶にないとのことであった。

写真フィルムの寿命はそれほど長くはなく、撮影前のもので約2年、撮影ずみのものは1ヶ月以内に適切な現像処理をしないと、鮮明な画像を得ることはむずかしいという。

フィルムの製造メーカーでもあり、文化財保存に関心をお持ちの富士写真フィルム(株)足柄研究所の瀬岡氏に相談したところ、「常識的に考えて、画像を得ることはおそらく無理であろう」とのことであったが、研究の一環として画像の取り出し作業に挑戦して下さることとなった。作業を依頼したものの、「何かうっすらとでも画像が出てくれば・・・」という程度の淡い期待以上に、十中八九無理であることは覚悟していた。ところが、半月ほどたったある日、「はっきりと画像が出た！」という思いもかけない連絡が飛び込んで来た。日の目を見ることがなかったはずの映像が、28年の歳月を経て姿を現したのである。

これは、28年前の撮影ずみ未現像フィルムから奇跡的に画像を取り出すことに成功した作業の記録である。

### 28年前撮影ずみフィルムからの画像取り出し

徳島県立博物館より「28年前撮影ずみフィルムからの画像取り出し」の依頼があった。潜像保存期間として室温で28年経時していることや、現像処理がすでに当時のものとは異なっていることから富士写真フィルム(株)足柄研究所内で協議し、次のような処理をおこなうこととした。

現像処理液は特別に手調合で作製し、慎重に処理を実施する。  
ネガ画像が現れた場合、NPプリントした後、デジタル画像処理をおこない補正する。

サンプル：富士写真フィルム(株)製 N100フィルム(28年前撮影ずみ)

#### 【処理】

現行のCN16処理とは現像主薬・処理時間が大きく異なるCN15処理のため、特別に手調合し現像を実施したところ、明らかなカブリ現象はあるものの、予想以上に鮮明なカラーネガ画像が得られた。画像は135のハーフサイズ、28コマであった。赤緑青(RGB)の順に画像情報の劣化が大きく、青情報はほとんど残されていなかった。

#### 【NPプリント】

上記ネガより現行フジカラープリントにNPプリントした。それなりのカラー画像は得られたが不満足なものであったため、28コマから6コマを選択し、次のデジタル画像処理を実施した。

#### 【デジタル画像処理】

下記の処理をおこない、補正ずみA4サイズペーパーを作成した。

ネガに残された画像情報をフロンティアスキャナで読み込む。  
(2000dpi/10bit)

画像処理ソフトのレベル補正にて、RGBのハイライト/シャドウが各々255、0付近となるように階調変換をおこない、ヒストグラムを均質化。

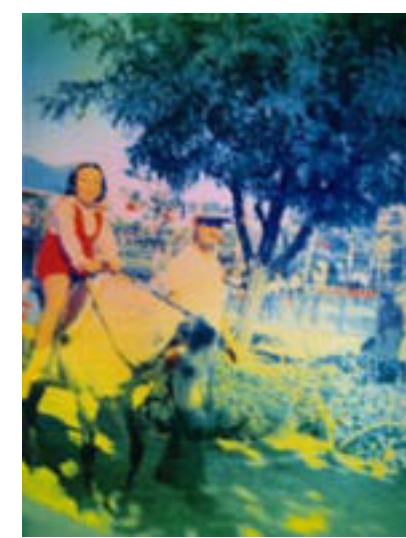
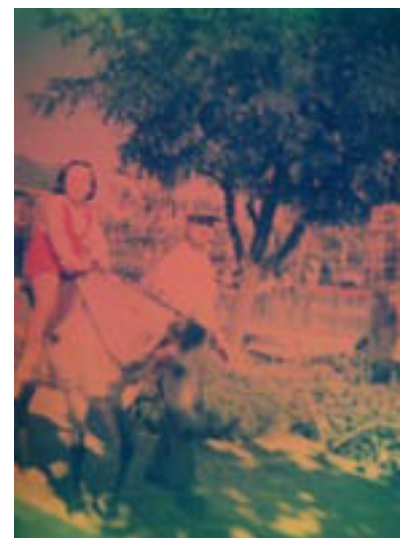
画面中央部のカラーバランスが適切となるように色補正。

画面全体の濃度が適切となるように濃度補正。

拡大処理を施し、Pictography3000により出力。

まだ不備な点は残るものの、補正カラー画像・補正黑白画像ともに、一般には充分満足できる画像を得ることができた。

特別協力：富士写真フィルム(株)足柄研究所  
瀬岡良雄氏・関裕之氏・内田充洋氏・清都尚治氏・山本真弓氏



左：ネガよりプリントしたもの、中：画像処理したもの（補正カラー画像）、右：補正黑白画像



「乗馬記念 昭和47年10月2日」  
の文字が確認できる  
(補正黑白画像の部分拡大)